

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	濾胞性リンパ腫の治療選択についての検討
	研究目的	濾胞性リンパ腫（FL）は本邦の悪性リンパ腫の約2割を占める緩徐進行性の低悪性度B細胞リンパ腫であり、治癒は困難であるものの、従来の R-CHOP 療法に加え、ベンダムスチン、新規抗CD20モノクローナル抗体製剤であるオビヌツズマブが導入されて以来、初回治療成績の向上がみられ、10年を超えて再発しないことが期待できるようになっています。しかしながら2年以内に再発をきたした患者さんは依然として予後不良であること、各抗がん薬の副作用の種類もことなるから、治療選択については十分に確立していない。本研究は当院で診断、治療されたFL患者さんのデータを後方視的に検討し、実臨床における各治療レジメンの特性および患者背景を解析することを目的とする。
	研究対象者	2011年01月から2021年06月に当センター血液・腫瘍内科にて濾胞性リンパ腫と診断され、化学療法を受けた患者さん。
	研究期間	西暦 2021年9月21日～西暦 2024年12月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理について の責任者	当センター 研究責任者	血液・腫瘍内科 医長 高橋 寛行
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	血液・腫瘍内科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	該当せず